

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
2006年12月1日発行
隔月発行・通巻No.153



『南武鉄道図絵』吉田初三郎 画

もくじ

- 2 情報ポケット
- 3 施設めぐり 大山街道ふるさと館
- 4 特集 川崎学のすすめ
- 6 まち・ひと・多面体
- 7 健康みちしるべ / 暮らし百景 俳壇

誌上ギャラリー

川崎市市民ミュージアム所蔵。南武鉄道は大正10年に貨客や砂利の輸送のため設立され、昭和2年7月に川崎―登戸間、矢向―川崎河岸駅間で営業を開始した。この図絵は、この時出版された沿線案内図である。中央に大きく電車の車両を描き、また川崎の鳥瞰図でありながら遠く樺太までも描いた初三郎独特の画面構成となっている。

情報ポケット

財団主催の各種講座の案内やお知らせ

多彩な学びをサポートします

—川崎市教育人材センター—

川崎市教育人材センターには、川崎市の学校を退職した教職員が、さまざまな学習活動を支援するボランティアとして登録しています。「地域のサークルで歴史を学びたいので講師を探している」「英語を勉強したい」「健康に関することを教えてほしい」など、指導者をお探しの方は当センターにご相談ください。18年度も、小学校・中学校・大学はもとより、社会福祉協議会やPTA、市民サークル、子ども会、診療所などから講師を依頼され、それぞれの要望にかなう人材を派遣しました。



幸区社会福祉協議会主催のリーダー講座に講師を派遣

メール・電話での教育相談も行っています

また、当センターでは電話とメールによる教育相談「やまびこ相談」を行っています。子どものことで気になること、心配なことなどありましたら、お気軽にご相談ください。

☆電話相談…月曜から金曜の9時から16時

☆メールアドレス…k-zinzai7474@miracle.ocn.ne.jp

「人材ガイド」を無料で差し上げます

107人の登録者の指導内容を掲載した2006年版「人材ガイド」を発行しています。ご希望の方は140円切手を同封し、下記へお申込み下さい。

また、このたび「教育人材センター」のホームページが出来ました。こちらにも「人材ガイド」の項目がありますので、ご自宅のパソコンでご覧いただけます。

〒211-0011 中原区下沼部1709-4

川崎市教育会館内 川崎市教育人材センター

電話相談・問い合わせ⇒☎044(435)7474

ホームページ⇒<http://www18.ocn.ne.jp/~k-zinzai/>

パソコンセミナー受講生募集

来春1月から2月に開催予定のセミナーをご案内します。パソコンの基礎から応用まで対応した12講座を行います。シニア対象の講座もありますので、この機会にトライしてみたいかがでしょうか。申込締切日を過ぎても空いている場合もありますので詳しくはお問い合わせください。

◆難易度… [やさしい] ☆<★<★★<★★★ [難しい]

講座名	難易度	講座No.	開催日	受講料	申込締切
ゆっくりじゅくりパソコンセミナー	☆	1-A	1/12(金)・19(金)・26(金)・2/9(金)・16(金)	25,000円	12/22(金)
パソコン入門	☆	1-B	1/17(木)・18(木)	13,000円	12/27(木)
パソコンステップアップ	★	1-C	1/23(火)・24(火)	13,000円	1/ 4(木)
インターネット・ブログ	★	1-D	1/25(木)	5,000円	1/ 5(金)
EXCEL初級	★★	1-E	1/30(火)・31(水)	13,000円	1/ 9(火)
ホームページ作成	★★	2-A	2/1(木)・2(金)	13,000円	1/11(木)
WORD初級	★★	2-B	2/6(火)・7(水)	13,000円	1/16(火)
デジカメ入門	★	2-C	2/13(火)	5,000円	1/23(火)
WORD中級	★★★	2-D	2/14(水)・15(木)	13,000円	1/24(水)
デジタル画像処理	★★	2-E	2/22(木)	5,000円	2/ 1(木)
ゆっくりじゅくりパソコンセミナー	☆	2-F	2/23(金)・3/1(木)・8(木)・13(火)・27(火)	25,000円	2/ 2(金)
パソコンステップアップ	★	2-G	3/27(火)・28(水)	13,000円	2/ 6(火)

■受講時間…9:30~16:30 (昼休憩1時間あり)

■対象…18歳以上 1-A、1-D、2-C、2-E、2-Fは概ね50歳以上。定員各15人

■会場…川崎市生涯学習プラザ 3階研修室

■申し込み…はがき・Fax・電話で。希望講座No.、〒、住所、氏名(ふりがな)、☎、Fax、年齢、受講目的を明記

〒211-0064 中原区今井南町514-1 川崎市生涯学習プラザ内 事業推進室 パソコンセミナー係

問い合わせ 事業推進室 ☎044(733)5894/ Fax(733)6697

財団が管理運営する施設を紹介

施設めぐり



企画展「『字本』愛と自然の博覧会」で行われた書の実演。



街道にまつわる多彩な品々を展示している

庶民の道から生まれた生活文化を紹介 —大山街道ふるさと館—

江戸時代から続く医院で薬入れに使われていた百味たんすや長火鉢、店の名が染め抜かれた半纏、アユやウナギ漁の時に用いられた竹製の仕掛けなどが並んでいる展示室。これらの道具や写真を眺めていると、当時の庶民の息づかいが聞こえてきそうです。ここは、南武線武蔵溝ノ口駅から徒歩7分の場所にある「大山街道ふるさと館」の展示室です。溝口・二子は、東海道の脇往還の一つである大山街道の宿場として、また、商業・農業の流通の中心地として栄えてきたところです。

平成4年にオープンした同館では、「民俗」「歴史」「自然」をテーマに、この地でたくましく生きてきた庶民の暮らしや歴史に関する資料を展示しています。また、第1回人間国宝となった陶芸家の濱田庄司や、作家の岡本かの子など、高津区にゆかりのある文化人の作品や足跡も紹介しています。特に展示室中央にある濱田庄司の「柿釉白掛鉢」（大正15年ごろの作）は重厚で力強く、見るものを圧倒します。

このような常設展示のほかに、年2回の企画展や文化講演会も開催しています。夏休みには「ふるさとこども相談室」を開設し、郷土の歴史を調べる子どもたちのサポートをしています。また、学習や会議の場としてのホールや会議室を市民に提供しています。

■文化講演会のお知らせ■

当館では「花の大江戸を支えた大山街道」と題し、講演会を下記の日程で開催します。

- ◆日時：12月9日(土)14時～16時
- ◆会場：当館2階イベントホール
- ◆講師：上田恒三氏（郷土史研究家）
- ◆テーマ：「百姓たちの明治維新～激流」
- ◆定員：先着80人。入場無料
- ◆申し込み：電話または直接来館

●大山街道ふるさと館案内●

所在地：高津区溝口3-13-3

交通：JR南武線「武蔵溝ノ口」東急田園都市線「溝の口」下車。徒歩7分

施設概要：展示室▽イベントホール（定員64人）▽和室（10人）▽第1会議室（12人）▽第2会議室（30人）

利用：年末年始の休館日（12/28～1/4）を除き9時30分～21時30分まで。利用する部屋や時間帯により料金が異なりますのでお問い合わせください。展示室は10時～17時まで（入場無料・閲覧自由）

問い合わせ ☎044(813)4705 / Fax044(814)0250

ミニ歴史講座～大山街道とは？

江戸赤坂御門を起点として、雨乞いで有名な大山阿夫利神社（神奈川県伊勢原市）への道を大山街道といいます。

徳川家康が東海道の宿駅伝馬制度をしいたのは「関ヶ原の戦い」の翌年の慶長6年（1601年）。道路・交通網の整備は、政治や経済上の最重要施策でした。江戸幕府は、江戸日本橋を起点に、東海道などの五街道の整備に力を注ぎながら、それを補う役割を持つ脇往還も整備しました。二子・溝口が大山街道の宿駅になったのは4代将軍家綱の時代、寛文9年（1669年）のことです。東海道と甲州街道の間の地域を江戸へ向か

ういくつかの脇往還がありましたが、大山街道は、元箱根の関所と並んで、もう一つの関所があった矢倉沢を通るので「矢倉沢往還」とも呼ばれました。

江戸中期には、庶民のブームとなった「大山詣」の道として利用されるようになり、この頃から「大山街道」として有名になりました。江戸後期には駿河のお茶、真綿、伊豆のシイタケ、干し魚などの物資を江戸に運ぶ大切な輸送路として利用され、これらを商う商人で栄えました。大山街道は、多くの人々や物資が往来し、文化や情報の交流が盛んでした。

学んだことが活動につながった

川崎学は「川崎という地域の人間の営みと風土を科学的に学習研究する講座」として、かわさき市民アカデミーが開校した1993年から行われています。現在は「歴史・民俗・地理」「市民と市政」「まちづくりと市民調査」「自然と歴史」の4体系で講座が組まれており、この13年間の受講者は約3500人になります。今号では前号に引き続き、川崎学を学んだ15人の方に、川崎学から得たもの、現在の活動、これからの川崎学に期待することなどを伺いました。

——川崎学を学んでどのような変化が生まれたのかを教えてください。

林
榮
さん



【林榮一】 川崎都民が川崎市民となったのですから、川崎市内の他の地域を知っておきたいということで、川崎学で「川崎の工業はどう変わろうとしているか」を受講しました。沿岸地域や川崎駅付近の現状や変化の様子を見ることが出来ました。次いで、「条例づくりを市民の手で」を受講しました。これは続いて「自治体の憲法・自治基本条例を作ろう」に発展するのですが、この流れが後の市民参加による自治基本条例の作成につながっていったのです。ここで市の職員と知り合ったことがきっかけとなり、後の宮前市民館での市民自主学級「宮前から見た地方分権」の開設に役立ったのです。

新しい活動の輪が広がった

【斎藤光正】 川崎学に出会ってから、特に自然環境の変化、文化遺産の現状などに関心を持つようになりました。講座を通して学ぶうちに、今まで日常生活で見えなかったものが、形として見えてきました。そして共通の考え方もつなたちにも出会えました。更に、いくつかの活動を通して市民アカデミーの仲間たちとのネットワークも生まれて、新しい活動の輪も広がっていきました。

【福山辰夫】 私は会社人間で技術屋でしたから、生田緑地や多摩川の流域、その他で行った自然観察、実体顕微鏡・ルーペ・双眼鏡などの使い方に新鮮さを感じました。学習は専門の講師による熱心な指導と実物をみながらの体験で、理解が早まりました。川崎の自然への興味を深めて、「自然観察相談員」



福山辰夫さん

の資格をいち早く取りました。また、いろいろな行事への参加が積極的になりましたね。

——ありがとうございました。それでは現在皆さんが取り組まれている活動を紹介して下さい。



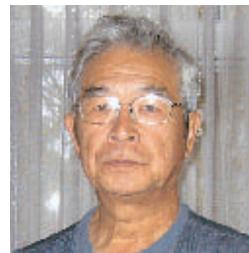
田嶋うめ子さん

【川口重治】 川崎市民でありながら、川崎を知らなかった私が川崎学により、川崎に目を向け、地域の中で生きるための最低の知識や知恵を学ぶことができました。お陰様で現在は、「多摩区街づくり推進協議会」委員として「安全で賑わいのあるまち部会」や特定非営利活動法人(NPO)「たまふくし協力会」の役員として仕事をさせていただいています。

【佐藤清忠】 現在関わっている活動のほとんどは川崎学で知り得た知識が生かされていると感じています。ボランティア活動として麻生区にある障害者の作業所(があでん・ららら)でハーブの育苗を10年続けています。また、宮前区市民健康の森、水沢の森の森づくり、生田緑地ばら苑のバラの育成、平瀬川流域まちづくり協議会の事務局の手伝いなどを行っています。これから大変になるのは副会長に選出された生田緑地管理運営協議会です。川崎学Ⅲで最初に手を染めた遊園跡地の提言が、思わぬところで芽を出すとは何か因縁がありますね。

川崎のよさを次世代に伝えたい

【佐藤徹】 自分が住み始めた川崎とはどんな所だろうか。特に自然関係については?こんな単純な疑問から始めた川崎学での学習は定年後の私の生活に大きく影響を与えてくれました。現在は、自然観察やハイキングの会に月3~4回参加して外歩きをし、ボランティア活動のため宿河原堰脇の二ヶ領せせらぎ館に毎週通っていて、結構忙しい日々となっています。さらに学習を深め、自然の不思議さ、貴重さ、楽しさを他の人にも伝えていきたいと思っています。特にこれからの世代を担う子ども達に、自然に興味をもって接する機会を多く与えたいと思います。こんな考えからNPO「多摩川エコミュージアム」を通して一般向けのイベントや児童を対象とした自然体験学習に頑張っています。



佐藤清忠さん

【福山辰夫】 講座が終わっても、OB会への参加を考え、「旬

竹井齋さん



の会」や「ばあそぶの会」などへ出かけて活動しています。今現在は、生田緑地ばら苑のボランティア、援農ボランティア、特別養護老人施設でのデイサービスボランティア、川崎学の自然観察相談員として手伝いなどを行っています。

【林榮一】 宮前市民館での市民自主学級「まちづくり学級」の世話人をさせてもらっています。市民自主学級は「地方自治コトはじめグループ」を組織して、川崎学を参考に、「宮前から見た地方分権」というテーマで講座を開設しました。さらに地域防災関係、とくに防災ニュースの編集などに取り組んでいます。これは、川崎学で宮前区の人達と一緒に地域の防災マップについて学習したことがきっかけとなって、宮前まちづくり協議会の防災部会が実現し、防災ニュースの編集につながったのです。

【長澤宗幸】 「学んだことを地域に還元しよう」との教えにより、ボランティア活動に参加するようになりました。現在では、①川崎市麻生区市民健康の森の活動②里山フォーラムin麻生の活動（麻生区周辺の里山ボランティア団体の集合体）③麻生区まち再発見研究会の活動④川崎ホームヘルパーコスモス交友会の活動⑤NPOサポート倶楽部友の会の活動（生きがい作り・青色回転灯車防犯パトロール）、そして、⑥かわさき市民アカデミーのサポーターなどのボランティア活動を行っています。



伊与田敦夫さん

——これからの「川崎学」に期待することをお話ください。

【佐藤恭子】 市民ミュージアムと連携して行われている講座では、学芸員の方々の高度で学問的な講義と、保存されている実物の資料を見たり、触ったりできるので、最適だと思います。これからの川崎学に望むことは「地域交流について」考える講座を求めます。単なる座学でなく、川崎の多くの場所を知ることができる講座も必要だと思います。

【大川茂子】 私も講座が座学だけでなく、野外研究があることは非常に良いことだと思います。学んだことを自分の足で歩き自分の目で確かめることにより、印象が一段と強くなりました。そして、台地のほうへ行くと緑豊かな自然と景観が残っていて、環境問題の大切なこともわかるようになりました。

【田嶋うめ子】 今や川崎学に違和感はなく、愛着すら覚えています。しかし、まだ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の学問体系がよく分かりません。例えば「歴史・産業文化・一般社会・自然」などと明確にした方が、受講する方も悩まなくてもよいと思います。近頃他の都市でも地域学習が盛んになっているようですが、先駆けの川崎学が、よりすっきりと体系化されることを期待します。いずれにせよ、知れば知るほどさらに関心が強まる状態です。



野外での実習風景
水質や生き物を調べる受講生

シニアの力を市政のパートナーに

【伊与田敦夫】 長寿社会を迎えて長い高齢期人生の過ごし方が深刻な社会課題となり、高齢者が引き続き生きがいを持って健やかに暮らせる環境づくりが求められています。市民アカデミーは数多くの高齢者に学びの場を提供し、主体的な学習による自己実現、また、仲間づくりや社会参加を通じた豊かな人生開拓を支援しています。その意味で市民アカデミーは市民生活の大きな“拠りどころ”となっています。今やシニア世代はキャリアと自由な時間を有する大きな市民勢力といえます。協働が模索される中で増大するシニア世代の活力は市政の重要なパートナーともなります。川崎学を中心とした市民アカデミーが果たすべき役割はますます大きいと思います。

【竹井齋】 川崎学が必修科目になっていますので、何らかの形で川崎を知ることになり、きっと愛着につながるでしょう。市民アカデミーで学んだ多くの方が、住んでいる地域で何らかの役割を担うようになります。その活動の様子を川崎学で講師役として、みんなに紹介するようになります。ますます川崎学が活発になることを期待しています。

【長澤宗幸】 川崎が大好きです。川崎学で川崎のことを知ることによって、もっともっと好きになると思います。川崎学により、ふるさと川崎を良くしようとする心が目覚めます。引きこもりをなくし心身ともに健康な市民が暮らす街の実現に向けて市民アカデミーが役立てば幸いではありませんか。

【斎藤光正】 川崎の形ある（残っている）ふるさと文化遺産をテーマにして、次世代への対応策を考えていきたい。多摩川流域及びニヶ領用水を中心とした市民生活と直結した取り組み方を考えて欲しい。そして地域の環境変化に対応した、環境行政の施策と住民（自治会・町会）の対応を考えていくべきだと思います。

【遠藤敦子】 講師が行政や大学研究機関、当該地域の方々と幅広く、遠くは北海道からの講師もいらっしました。特に、明日を担う若い講師の方々との交流は、活力をもらうこともあります。郷土川崎を愛し、論じ、育てる気迫のあるメンバーが集まってきます。これからも若い方々との交流を期待します。



遠藤敦子さん

まち・ひと・多面体

ファッションショーで交流の場をつくる

「麻生ハートフルフレンズ」

ズボンのポケットに片手を入れさっそうと歩く男性、優雅にショールをまといポーズを決める女性。プロのモデルさんからのウォークに「ワァーすてき！」と400人近い観客から声があがります。これは、敬老の日に麻生区の新百合21ホールで行われた「麻生ハートフルエイジファッションショー」(高齢者ファッションショー)のひとコマです。

主催は「麻生ハートフルフレンズ」(曾我恵美子代表、スタッフ10人、モデル65人)。閉じこもりがちな高齢者の社会参加と交流の場づくりを目的に、2001年から麻生区在住の65



歳以上を対象にモデルを公募しショーを開催しています。これまでの参加者は延べ215人。モデルになったことがきっかけで「友達ができた」「行動範囲が広がって楽しみが増えた」「家族と和めるようになった」と好評です。

6回目の今回のショーは2部構成。第1部では、神奈川県警と連携し、夜間の交通事故防止のための反射材(車のライトに反射する素材)を利用した傘や衣服など18点を紹介。2部では、65歳から82歳までのモデルが、自前の服に工夫を施したものや、自分で染めたスカーフをアレンジし華やかな装いで次々に登場しました。モデルになった人たちは、染色・小物製作・カラー・ウォーキングなどの講座で4ヵ月にわたり学び、舞台上に立ちました。当日はその成果を十分に発揮し、会場から盛んな拍手を浴びていました。

代表の曾我さんは「区内の団体や企業、学校などに協力を呼びかけ、交流の輪を広げています。舞台上に立ててよかったと言われると嬉しいですが、ショーは到達点ではなく出発点。ここからいろいろな方向に発展して欲しいです」と話していました。

なお、同会では若い世代を対象にした「ヤングブリーリアントファッションショー」を12月9日(土)15時から新百合21ホールで開催予定です。

問い合わせ ☎・Fax 044(952)4604 曾我さん

「違い」を認め合い豊かな日本社会を

らいこむ多文化教室「子どもが楽しめる母語・語学教室」

「ニーハオ!」「アンニョンハセヨ」のあいさつが飛び交う土曜の午後、川崎区の教育文化会館には中国語や韓国朝鮮語を学びに幼児や小学生がやってきます。主催するのは「らいこむ多文化教室『子どもが楽しめる母語・語学教室』」(朴海淑代表、運営委員・講師20人)です。

同団体の活動は、外国人市民が多い川崎区で「平成16年度教育文化会館市民自主企画事業」として、中国や韓国朝鮮籍の児童に、母語の学習支援講座を開催したことに端を発します。現在は、それぞれの「母語クラス」、日本人の児童を対象にした「入門クラス」「進級クラス」、就学前の親子を対象にした「親子ひろば」韓国の格闘技を体験する「テコンドー」などの教室を、ネイティブの講師を中心に活動しています。昨年度は延べ1124人の子どもたちが参加したそうです。

10月初旬、「らいこむ」の教室に伺いました。中国語の「母語クラス」では、両親が中国人で、日本で生まれ育った8歳のHさんが、来日3年目の張学峰先生と一緒に勉強していました。教材は中国の小学生が使っている教科書で、物語文の中に出てくる重要な語句を書き取ったり、それをういて文を作ったりしています。時々、日本語でしゃべりながら考えているHさんに、張先生が中国語で助言していました。

小学4年生のFさんは、韓国朝鮮語の「進級クラス」で会話を学んでいます。街中で見かけたハングル文字に興味を持ち、2年前から通っています。「家族で韓国に行った時、私が通訳したい」と、はにかみながら話してくれました。

代表の朴さんは「子どもたちの母語をサポートすると同時に、多文化の豊かな社会の創造をめざしています。違う言語や文化に小さい時から触れ合うことで多様性を認める考えが育ってくるのだと思います。大人対象の日常会話や料理講座もあります。一緒に学びましょう」と呼びかけています。

問い合わせはメールで ⇒pk_haesook@k2.dion.ne.jp

ホームページ⇒<http://www.geocities.jp/licom2004/>



韓国朝鮮語入門クラス

テコンドークラス

健康みちしるべ

すこやかな日々を送るためのアドバイスを連載

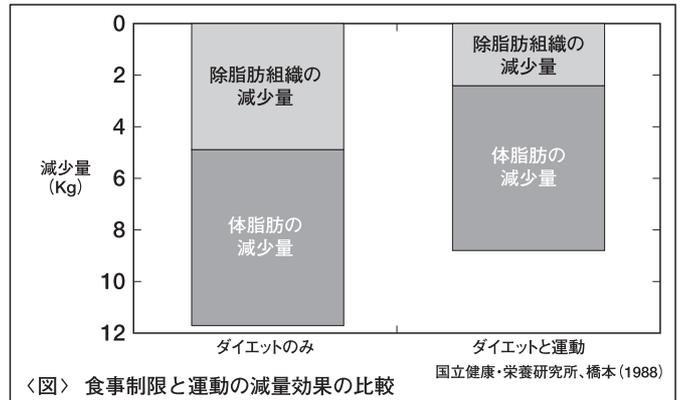
体重コントロール～食事制限か運動か

減量方法としては、食事制限と運動のどちらが効果的でしょうか。このことを説明する前に、ひとつ、確認しておきたいことがあります。それは、「肥満」の意味です。医学的には、肥満とは「体脂肪が過剰に蓄積した状態」であり、単に体重が重いだけの場合は「過体重」とよんで区別しています。健康上問題があるのは肥満の方です。

図1に、国立健康・栄養研究所で行われた研究成果を示しました。ダイエット（食事制限）のみの場合は、1日あたり500kcalのエネルギー摂取制限を行いました。ダイエットと運動を組み合わせた場合は、1日あたり250kcalのエネルギー摂取制限と250kcalの運動を行いました。

まず、見掛け上は、ダイエットのみの場合の方が体重の減少量は多くなりました。しかし、身体の中で何が減ったのかを見てみると、体脂肪の減少量は同等であり、ダイエットのみの方がより多くの「除脂肪組織」が減っていたことが分かりました。除脂肪組織とは、体脂肪以外の組織のことで、具体的には、筋肉、内臓、骨などのことです。

このような研究が、日本国内だけでなく、諸外国でも多数行われ、それらの研究結果を平均すると、食事制限だけで減量すると、減少する体重の約25%は除脂肪組織であることが分かりました。



食事制限だけで減量すると太りやすくなる

食事制限だけで減量すると「筋肉、内臓、骨などが減る」ということだけでも、食事制限のみによる減量が非健康的であることがわかります。さらに、もう1つの問題点は、筋肉や内臓は1日に消費する全てのエネルギーの6～7割ぐらいを消費しているので、筋肉や内臓が減ってしまうとエネルギーを消費する能力が低下し、肥満しやすい身体になってしまうことです。

このようなことから、減量に際しては、健康上運動ができないときを除いて、必ず運動を行わなければならないと考えられています。

川崎市立看護短期大学助教授 にしはた いずみ 西端 泉

くらし百景

麦の穂句会

俳壇

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|----------------|--------------|-------------|-------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|-------------|--------------|-------------|--------------|-------------|---------------|--------------|--------------|--------------|---------------|--------------|------------|---------------|-------------|----------------|----------------|--|
| 鯉職逆立つ谷戸の風荒し | 紅深く黒薔薇といふべかりけり | 秋蟬の阻む夢路や朝まだき | 花筏たゆたふ先に屋形船 | 白魚の一瞬おどる喉かな | 破蓮や花托に闇のあふれをり | 滝音に吾子偲ぼるる古刹かな | 木洩れ日のただよふ池の青味泥 | 凌霄のなど散り急ぐにはたづみ | 煤籠る後ろめたさの第九かな | 金粉茶いや輝きて年迎へ | 悠久の谷戸は時越え草青む | 稜線に見えて隠れて鯛雲 | 亡き夫の星と語らふ夕涼み | 夜桜の風に騒めく能の果 | 三伏や格子戸閉ざす祇園茶屋 | 練来ず昆布が生計の利尻人 | 夕顔やそのみ白く暮れ残る | 春の色かき分け銀座八丁目 | 島影に揺るる遍路の笠ふたつ | 真清水の水面に映る花頭窓 | 故郷の父母思ふ秋の声 | 平安の池や菖蒲の濃むらさき | 一人住む母の団地の時鳥 | 阿波木偶のかたりと眠る霧月夜 | 蘆刈りの寄り合ふ苦屋灯りけり | |
| 椎橋 忠道 | 重岡 秋生 | 片野 菊女 | 国友 道男 | 上田 久幸 | 平田 さゆり | 斎藤 マサ子 | 渡辺 みのる | 笠原 俊子 | 蒲地 青迷 | 太田 幸世 | 玉井 洋子 | 清水 安奈 | | | | | | | | | | | | | | |

※麦の穂句会は、清水安奈氏を囲み、川崎区京町地域で月例会、吟行会などを楽しみながら、より良い句づくりをめざしております。
問い合わせ ☎・Fax 〇四四(三三三) 三二四三 上田

川崎市生涯学習プラザの施設ご利用案内

川崎市生涯学習プラザは、市民のみなさんが様々な学習の場としてそれぞれの形態に応じて、会議室などの施設をご利用いただくことができます。

会議室は利用人数に応じて16人・30人・72人・144人の定員があり、会議から演劇練習まで用途はいろいろ。スペースをつくれればヨガや太極拳などもできます。また、多目的ルームやフィットネスルームでもダンス・卓球や合唱などもできます。



【 2階 会議室 】

会議室にある机を端によせて
車座になってワーキングしている
子ども達の様子



【 4階 フィットネスルーム 】

ヨガマットを並べ
大人数でヨガをやっている様子

2006年10月23日 ホームページをリニューアルしました

<http://www.kpal.or.jp/>

『貸館／利用申込状況』
が検索できます。

生涯学習プラザの会議室、和室、多目的ルーム、フィットネスルームなど、部屋ごとの利用申し込み状況が確認できるようになりました。

一見して空き状況がわかりますので、申し込みの際にお役立て下さい。

『情報誌 (Stage Up)』
が検索できます。

生涯学習情報誌・ステージアップは隔月で誌面発行しています。今回のリニューアルに伴って、ホームページからも閲覧やダウンロードが出来るようになりました。

また、通巻150号からのバックナンバーも掲載してありますので、是非ご活用下さい。

川崎市生涯学習財団は市民一人ひとりの喜びと活動を支援しています
ふるってご参加下さい

000592

お知らせ 2006年10月26日 貸館/利用申込状況を更新しました。
2006年10月23日 マグジンを検索リニューアルしました。

© 2006 All Rights Reserved. Agency of Lifelong Learning. All rights reserved.